

花粉症でもかゆくない 目につけると薬がしみ出すコンタクトレンズ

有料会員記事

鈴木彩子 2022年2月20日 7時00分



花粉を放出するスギ=花粉情報協会・佐橋紀男氏提供



全国各地で、スギ花粉が飛び始めた。ふだんコンタクトレンズをつけている人は、目のかゆみや充血に悩まされ、この時期だけ眼鏡に変える人も少なくない。ところが最近、アレルギーがある人も使える新しいタイプのコンタクトレンズが登場した。

一般的に、目にかゆみのある時は、コンタクトの使用を中止することが勧められている。コンタクトそのものが刺激になり、症状が悪化する恐れがあるためだ。

コンタクトをつけたまま、かゆみ止めなどの目薬をさすことも危険だ。コンタクトが変質したり、目に悪影響が出たりする恐れがある。

だがジョンソン・エンド・ジョンソンが昨年12月に行ったウェブ調査によると、目に症状があっても、7割近い人がコンタクトをつけた経験があった。

「視力や見え方がいつも通りでないと困る」「仕事上、眼鏡をかけるのが難しい」などの理由があげられた。

そんな悩みに応えようと、同社が発売したのが「ワンデーアキュビュー セラビジョン アレルケア」だ。

1日使い捨てのソフトコンタクトレンズに、花粉症の治療によく使われる抗アレルギー薬の「ケトチフェン」をしみこませてある。「薬剤含有コンタクトレンズ」という新しい分類の医療機器だ。

レンズ1枚に含まれる薬の量は、目薬の1日の用量の10分の1ほどで、目につけると約5時間かけて成分がしみだしていく。

約240人が参加した臨床試験では、かゆみを抑える効果は、12時間後も続いていた。

近視用のみで、購入するには眼科医の処方箋（せん）が必要になる。

処方の対象になる人は？ 重症ならまず治療を

花粉により目がかゆくなるのは、まぶたの裏側と白目を覆う「結膜」という粘膜に炎症が起こるためだ。医学的には「アレルギー性結膜炎」と呼ばれる。

花粉やハウスダストなどのアレルゲンが目に入ると、結膜の中でかゆみを引き起こす成分が放出される。これが神経や血管を刺激して、充血したり、かゆくなったりする。だが目をかくと、ますますかゆくなる悪循環が生まれる。

日本眼科アレルギー学会前理事長で、ツカザキ病院（兵庫県 姫路市）眼科部長の福島敦樹さんは、患者の症状に応じて、このレンズを処方している。

「結膜や角膜の状態、まぶたの裏の炎症の程度などを調べて、処方できるかどうかを判断している。抗アレルギー薬だけで症状をコントロールできるような人は、このコンタクトレンズが一つの選択肢になる」と話す。

ただ、炎症がひどく、ステロイド薬の処方が必要な人は処方の対象外となる。

福島さんは「アレルギーのシーズンにコンタクトとうまく付き合っていくためには、眼科を受診して、目の状態を把握することが大切。重症の人も、きちんと治療すればコンタクトを使えるようになる場合もあるので早めの受診を」と呼びかけている。（鈴木彩子）